

### 第3学年 英語科 学習指導案

熊本市立天明中学校 教諭 永尾 展伸

#### 1 単元名 World Tour ② How Do We Live?

#### 2 単元の目標

- ・世界を100人の村に例えた文章から、世界の現状をとらえることができる。(知識・技能)
- ・記事の内容以外のテーマについて、どのような割合になるのか調べて発表することができる。  
(思考・判断・表現)
- ・世界の現状を理解し、未来に向けて具体的な解決方法を主体的に探る。  
(主体的に学習に取り組む態度)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

- ・本単元では、「世界が100人の村だったら」を教材として取り上げる。「世界が100人の村だったら」はインターネットを介して広まった文章で、発端はアメリカの大学教授ドネラ・メドウズによる報告書と言われている。その報告書では、世界を人口1000人の村と仮定し、人種や経済、政治、宗教及び社会のさまざまな問題がどのような数字となって表せるかをつづつたものである。それがインターネット上で人々の手を経るうちに、村の人口は100人となり、ある部分は削られ、後半には希望のメッセージのような部分が書き足された。この文章は日本でも翻訳されて広まり、その後、本として出版された。

本教材を通して、さまざまな比率をそのままに世界を100人の村に置き換えるとどうなるのかを数字で見せることで、「住む家」「飲んでいる水」「スマートフォンやインターネット環境」等、生徒にとって日常の一部であるものが、世界では当たり前ではなかったり、また、世界の人々を受け入れ、理解し、多様性を知ることの大切さについても考えさせたい。

- ・言語材料としては、現在完了「経験」やif節を使った仮定法の表現を用いて、自分の考えや疑問に思うことを書かせたり、自分が調べた内容を、「もし世界が100人の村だったら」の形でペアやグループで発表したりさせたい。

##### (2) 生徒観

本学年の生徒は、学活や道徳の時間など、物事を自分なりに考え、意見を言うことができる生徒もいる一方で、自らの考えをまとめるのに支援が必要であったり、進んで意見を発表したりするのが苦手な生徒も少なくない。

3年生では「地域の環境問題」に関する取り組みの一つとして、「炭焼き体験」を行った。周りと協力して竹の炭を作ったり、学校近隣の水路に設置したりする作業を行った。

事前アンケートの結果は以下の通りである。(3年2組 26名)

- ①世界で、読み書きができる人の割合は、どれくらいだと思いますか？

8割以上 2人 / 6～8割 11人 / 4～6割 11人 / 2～4割 1人 / 2割以下 1人

- ②世界で、十分に食べ物がある人の割合は、どれくらいだと思いますか？

8割以上 0人 / 6～8割 8人 / 4～6割 15人 / 2～4割 2人 / 2割以下 1人

- ③世界で、雨風を防げる場所に住んでいる人の割合はどれくらいだと思いますか？

8割以上 2人 / 6～8割 4人 / 4～6割 15人 / 2～4割 4人 / 2割以下 1人

- ④世界で、インターネットが使える人の割合はどれくらいだと思いますか？

8割以上 1人 / 6～8割 6人 / 4～6割 12人 / 2～4割 4人 / 2割以下 3人

- ⑤世界で、今、問題だと思うことを3つあげるとすればどんなことですか？

戦争、紛争、核兵器、地球温暖化、環境破壊、飢餓、貧困、ごみ問題、プラスチックゴミ、差別、経済格差、子どもの労働、少子高齢化、ウイルス、感染症、地域格差、など

### (3) 指導観

世界で起こっている様々な問題や課題が報道され、情報も多いが、生徒たちの意識や知識が十分とは言えない。本単元の指導に当たっては、「世界が100人の村だったら」の教材を通して、自分たちの身の回りの生活が、必ずしも当たり前のことではないことをあらためて考えさせたい。比べる単位を「100人の村では」と、加工することで、生徒たちに世界の現状や課題について、より身近に、より自分ごととしてとらえさせたい。もしも世界が100人の村だったらという仮定の状況がイメージできるように、図や数字等を視覚的に示しながら導入する。世界の現状について考え、気になった部分や驚いた部分などを話し合い、周りと共有する。

展開後半では、SDGsについてもふれ、本教材のテーマ以外の問題についても関心を持たせ、生徒それぞれに調べさせ、「100人の村」の形で原稿を作り、グループで発表させる。最後に、これからどのような村にしたいかを考えさせ、ESDの視点から物事をとらえる機会にしたい。

### (4) ESD との関連

#### ・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- I 多様性…民族や文化、性別やジェンダーなどについて考え、多様性を認める。
- II 相互性…資源、環境、経済、食糧、安全等の課題は、色々な国や地域が関わり合っている。互いに協力し合って解決していかなければならない。
- III 有限性…資源や食糧・飲料水など、有限な資源の偏りをなくし、独占のない世界に。
- IV 公平性…あらゆる人に教育、安全、健康などが保証され、不公平や地域格差がない世界に。
- V 連携性…問題の解決に向け、国や自治体、企業が丸となって協力していかなければならない。

#### ・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ①多面的・総合的に考える力…正しい情報や知識をもとに、多面的に物事を考え、解決方法を考える力
- ②つながりを尊重する態度…現代の様々な問題や課題について、自分事として考え、周りと協力して解決していこうとする力

#### ・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

- 人権・文化を尊重する（文化多様性の尊重）：
  - ・世界のどの地域に住む者も皆、人権や文化が尊重され、安心して過ごせるように世界は努めなくてはならない。
- 自然環境、生態系の保全を重視する（生物多様性の重視）：
  - ・世界のどの生物も皆、継続的に健やかに平和に過ごせる環境にいてはならない。

#### ・ 達成が期待される SDGs

- 2：飢餓をゼロに
- 3：すべての人に健康と福祉を
- 4：質の高い教育をみんなに
- 6：安全な水とトイレを世界中に

#### 4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 記事を読み、世界でどれくらいの割合の人がそれをしているのかを理解している。</p> <p>② 学んだり、調べたりした知識や情報を、既習の英語表現や図・イラストを用いて表現する技能を身につけている。</p>	<p>① 本教材の中の4つのテーマから一番驚いたものを選びその理由を日本語で説明している。</p> <p>② 記事内容以外のテーマで「世界が100人の村だったら」の形で英文を書き、紹介するカードを作っている。</p>	<p>① 記事内容以外のテーマで、どの割合の人がしているのかを調べ、世界の問題について考えようとしている。</p>

#### 5 単元の指導計画（全2時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（○）備考（・）
1	<p>○「世界が1つの村だとしたら」の記事を読み、この村の現状について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～の数字・割合に驚いた</li> <li>・～について知らなかった</li> </ul> <p>○グループで記事を読んだ感想や疑問点などを意見交換する。</p> <p>○記事以外のテーマについて、世界ではどのような問題があるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの暮らしと、世界の他の地域との暮らしを比べさせる。</li> <li>・タブレットも活用させ、記事のそれぞれの割合が最新のデータではどのような割合になるかも調べさせる。</li> <li>・報道などでよく見たり聞いたりする問題について、自分事として考えるきっかけにする。</li> </ul>	<p>○ア①（知・技）</p> <p>○イ①（思判表）</p>
2	<p>○記事以外のテーマについて、世界ではどのような割合になるのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー問題についてもっと調べてみたい。</li> <li>・エネルギーや気候変動についても調べてみてはどうか。</li> </ul> <p>○調べたテーマを「100人の村」の形でカードを作成し、グループやクラスで発表する。</p> <p>○感想をまとめ、授業の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー問題や地球温暖化など、生徒それぞれに関心があることについて考えさせる。</li> <li>・if節を使った仮定法の表現を用いたり、図や表の活用についてアドバイスしたりする。</li> <li>・タブレットを活用させる。</li> <li>・作成したカードをペアやグループで発表させ、いろいろなテーマやその現状があることに気づかせる。</li> <li>・これから世界をどのような村にしていきたいか考えさせる。</li> </ul>	<p>○ア②（知・技）</p> <p>○イ②（思判表）</p> <p>○ウ①（主体的）</p>